

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	02	農道整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	05	農道整備事業

実施計画整理番号	
501010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業者及び農道利用者に対して、幹線道路の早期整備と支線道路の舗装を推進し、既存農道の適正な維持管理に努める。	未舗装、未整備農道の舗装及び整備実施
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	舗装進捗率: 45.4%	・補助金を活用した農道整備の事業進捗を図る。 【農道1路線 延長210m、面積630㎡を予定】

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,912	17,924	17,215	2,912	11,956	11,956	7,149	0	0	4,200	0	0	
財源内訳	国補助	千円	1,456	0	0	1,456	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	1,456	1,452	0	2,805	2,805	3,200	0	0	2,100	0	0
	市債	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	800	800	2,800	0	0	1,800	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	456	15,468	14,763	456	8,351	8,351	1,149	0	0	300	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農道の舗装新設	2,912	11,956	11,956	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,912	11,956	11,956	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・農道2路線の舗装工事、延長631m、面積1,709㎡を実施した。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	02	農道整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	05	農道整備事業

整理番号
501010201

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	舗装工事、延長631m、面積1,709㎡を実施。		舗装進捗率: 45.5% (0.2ポイント上昇)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A: 妥当である	農業者及び農道利用者の安心・安全の向上を図るため、公共事業にて施行する必要がある。	A: 有効である	荷の傷み等の被害防止により、消費者ニーズに応じた高品質で安価な作物の供給が図れる。	B: やや効率的である	今後も国の補助制度を活用するとともに、コスト縮減が図れるよう努める必要がある。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A: 実現している	・地元説明会 ・自治会回覧	B: 実現に向けて取り組んでいる	地元自治会や関係者の意見を反映している。	B: 実現に向けて取り組んでいる	地元自治会や関係者と協議を実施している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね目標は達成された。国の補助金を活用し実施しているが、補助金が削減されており、また地元からの整備要望が多く、進捗が図れない状況である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農道舗装について、目標を達成していると認められる。引き続き、着実な農道舗装の進捗を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(アウトカム)の設定	
	農道整備延長		舗装進捗率	
令和元年度における具体的な目標		令和元年度における事務事業スケジュール		
・補助金を活用した農道整備の事業進捗を図る。 【2路線、延長670m、面積1,750㎡を予定】		舗装進捗率: 45.7%		

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	01	03
用排水施設整備事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	05	01
用排水施設整備事業			

実施計画整理番号	
501010301	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	受益農家に対し、湛水被害の解消と維持管理の軽減を図る。また、安定した用水を供給することにより、農業経営の安定を図る。	農業施設の新設及び改修を行う県営事業に対し、事業費の負担をす
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	・円滑な事業推進を図るため、千葉県や地元水利組合等と協議を重ね早期完成に努める。	・県営事業に対しての事業負担(かんがい排水事業など) ・ため池の整備(粟生野堰・二重堤堰・源田堰) ・用排水路整備事業(長谷地先他)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	47,682	43,395	36,475	29,280	46,353	44,489	68,525	0	0	49,132	0	0
財源内訳	国補助	千円	10,916	10,916	0	12,200	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	7,032	13,523	26,550	0	0	18,000	0
	市債	千円	15,700	15,700	0	9,600	7,800	16,200	31,000	0	0	16,200	0
	その他	千円	4,035	4,035	0	630	2,583	2,174	684	0	0	0	0
	一般財源	千円	17,031	12,744	36,475	6,850	28,938	12,592	10,291	0	0	14,932	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ため池等整備事業	14,180	41,135	39,316	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
②	用排水路整備事業	11,900	2,408	2,408	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
③	かんがい排水事業(県営・団体営)【両総茂原南地区・両総茂原西部地区】	3,200	2,810	2,765	概ね目標は達成された。今後も早期完成に向け、千葉県等と共同し取り組む必要がある。
④	基幹水利施設ストックマネジメント事業(県営)【清水地区】	0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		29,280	46,353	44,489	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・県営かんがい排水事業負担金(両総茂原南地区、両総茂原西部地区) ・県営ため池等整備事業負担金(藤木堰) ・用地測量(小林前堰) ・積算委託(粟生野堰) ・用排水施設整備工事(9件)

D
O
(
実
施
)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	03	用排水施設整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	05	01	用排水施設整備事業

整理番号
501010301

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・県営事業の整備促進を図るため、事業費負担を実施。 ・用排水施設整備工事(9件)を実施。	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 県営事業の整備促進を図るため、事業費負担を実施した。また、ため池及び用排水路の整備を実施することで安定した用水供給・農業経営の安定が図れた。	
妥当性の評価とその理由 A:妥当である 農業用施設の安全性・効率性の向上を図るため、市が関与すべき事業である。	有効性の評価とその理由 A:有効である 安定した用水の供給・農業経営が図れる。	効率性の評価とその理由 B:やや効率的である 県営事業で整備を実施することでコスト縮減が図れる。
「情報の共有」の状況とその理由 A:実現している ・地元説明会 ・自治会回覧	「参加」の状況とその理由 A:実現している 推進協議会等	「協働」の状況とその理由 B:実現に向けて取り組んでいる 地元水利組合や関係者と協議を実施している。
所管による評価とその理由、課題・問題点 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 概ね目標は達成された。課題として、農業用施設の整備には多額の費用を要することから、引き続き関係機関と協議し、予算確保に努める必要がある。		
企画政策課での評価とその理由 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 計画的な整備が行われており、当初の目標を達成していると認められる。引き続き、関係機関と協議し、事業推進を図るものとする。		
政策調整会議での評価とその理由 (This cell is currently blank)		
庁議における方針 (This cell is currently blank)		

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 ・県営事業に対する事業費負担 ・用排水施設整備の件数	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 農業用施設の整備促進を図り、安定した用水の供給・農業経営を図る。
令和元年度における具体的な目標 ・県営事業に対する事業費負担の実施 ・ため池等安全対策工事(2件) ・用排水路整備工事(1件) ・ため池整備工事(1件)	令和元年度における事務事業スケジュール 円滑な事業推進を図るため、千葉県及び地元水利組合等と協議を重ね早期完成に努める。

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	01	03
用排水施設維持管理費			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	06
用排水施設維持管理費			

実施計画整理番号	
501010302	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	土地改良区・水利組合・自治会等の共同施行者が管理する農業用施設の維持管理費に対し、地元施行者の軽減を図り、農業基盤の安定を図る。	地元施工による農業用施設の維持管理費に対し、補助金を交付する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
地元農家の安定した農業経営と生活環境の保全を図る。		・農道小用排水補助金交付(随時) ・排水機場維持管理事業補助金交付 2件 ・千葉県多面的機能支払交付金 28件 ・ため池水位調整管理補助金交付 22件 ・維持管理適正化事業補助金交付 2件

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	45,338	47,273	46,020	48,027	49,249	48,637	52,054	0	0	47,442	0	0
財源内訳	国補助	千円	18,559	18,559	0	20,420	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	9,279	9,279	27,834	10,210	29,010	28,740	28,299	0	0	28,299	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	1,038	0	2,320	2,083	2,808	0	0	0	0
	一般財源	千円	17,500	19,435	17,148	17,397	17,919	17,814	20,947	0	0	19,143	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農道小用排水補助金の交付	2,706	3,532	3,428	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
②	排水機場維持管理補助金の交付	2,100	2,227	2,155	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
③	内谷川沿岸土地改良区への補助金の交付	0	0	0	
④	内谷川(東郷支線)水門等維持管理費	800	915	876	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
⑤	ため池水位調整管理補助金の交付	920	915	880	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
⑥	維持管理適正化事業補助金の交付	660	2,944	2,944	目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
⑦	多面的機能支払交付金の交付	40,841	38,681	38,319	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
⑧	用排水施設等管理交付金	0	35	35	目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		48,027	49,249	48,637	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・農道小用排水補助金の交付(11件) ・排水機場維持管理補助金の交付(2件) ・内谷川(東郷支線)水門維持管理費(草刈等3件) ・ため池水位調整管理補助金の交付(21件) ・維持管理適正化事業補助金の交付(2件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能支払交付金の交付(28組織) ・用排水施設等管理交付金(1件)

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	03	用排水施設維持管理費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	06	用排水施設維持管理費

整理番号
501010302

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 年間を通じ、農業用施設の維持補修等に対して、補助金48,637千円を交付し、地元水利組合等の負担軽減を図った。	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 補助金を交付することで、農業用施設の適正な維持管理を実施することができた。交付地区件数:68件						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">妥当性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">有効性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">効率性の評価とその理由</th> </tr> <tr> <td> A:妥当である 地元水利組合等が管理する農業用施設の維持管理費の負担軽減を図るため、市が関与すべき事業である。 </td> <td> B:やや有効である 安定した用水の供給・農業経営が図れる。 </td> <td> B:やや効率的である 老朽化施設の増加によるコスト増が予想される。 </td> </tr> </table>		妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由	A:妥当である 地元水利組合等が管理する農業用施設の維持管理費の負担軽減を図るため、市が関与すべき事業である。	B:やや有効である 安定した用水の供給・農業経営が図れる。	B:やや効率的である 老朽化施設の増加によるコスト増が予想される。
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由					
A:妥当である 地元水利組合等が管理する農業用施設の維持管理費の負担軽減を図るため、市が関与すべき事業である。	B:やや有効である 安定した用水の供給・農業経営が図れる。	B:やや効率的である 老朽化施設の増加によるコスト増が予想される。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> <tr> <td> A:実現している 地元水利組合や関係者と協議を実施している。 </td> <td> A:実現している 地元水利組合や関係者の意見を反映している。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 地元水利組合や関係者と協議を実施している。 </td> </tr> </table>		「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由	A:実現している 地元水利組合や関係者と協議を実施している。	A:実現している 地元水利組合や関係者の意見を反映している。	B:実現に向けて取り組んでいる 地元水利組合や関係者と協議を実施している。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由					
A:実現している 地元水利組合や関係者と協議を実施している。	A:実現している 地元水利組合や関係者の意見を反映している。	B:実現に向けて取り組んでいる 地元水利組合や関係者と協議を実施している。					
所管による評価とその理由、課題・問題点							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</td> <td>概ね目標は達成された。今後は、老朽化施設の増加に伴うコスト増が予想される。</td> </tr> </table>		A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね目標は達成された。今後は、老朽化施設の増加に伴うコスト増が予想される。				
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね目標は達成された。今後は、老朽化施設の増加に伴うコスト増が予想される。						
企画政策課での評価とその理由							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</td> <td>概ね予定どおり補助金を交付し、農業用施設の適正な維持管理に成果があったと認められる。引き続き、適正な維持管理を推進するとともに、将来的なコスト負担についても検討を要するものとする。</td> </tr> </table>		A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね予定どおり補助金を交付し、農業用施設の適正な維持管理に成果があったと認められる。引き続き、適正な維持管理を推進するとともに、将来的なコスト負担についても検討を要するものとする。				
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね予定どおり補助金を交付し、農業用施設の適正な維持管理に成果があったと認められる。引き続き、適正な維持管理を推進するとともに、将来的なコスト負担についても検討を要するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由							
庁議における方針							

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 補助金52,054千円を交付し、農業用施設の維持補修等に要する負担軽減に努める。	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 補助金の交付地区件数
令和元年度における具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・農道小用排水補助金の交付(随時) ・多面的機能支払交付金の交付(25組織) ・ため池水位調整管理補助金の交付(21件) ・排水機場維持管理補助金の交付(2件) ・維持管理適正化事業補助金の交付(3件) 	令和元年度における事務事業スケジュール 農家の安定した農業経営と生活環境の保全を図る。

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	01	03
農村地域防災減災事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	05	04
農村地域防災減災事業			

実施計画整理番号	
501010303	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業生産の維持、農業経営の安定及び農用地のみではなく、地域住民の暮らしの安全の確保を図り、災害に強い農村づくりを実施する。	自然的、社会的要因で生じた農業用施設の機能低下の回復や災害の未然防止を図るために整備実施。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
事業化に向けた、清水地区排水機場の改修を再検討し、事業計画書等を作成する。 地域ため池の調査設計業務を発注する。	・排水機場(清水)事業計画書等作成業務 ・地域ため池の調査設計業務	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	22,000	16,848	16,848	23,600	21,608	20,725	5,872	0	0	9,862	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	5,400	5,400	5,400	7,000	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	16,600	11,448	11,448	16,600	21,608	20,725	5,872	0	0	9,862	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	農村地域防災減災事業【清水地区】	7,000	5,008	4,644	本地区の課題解消を図るため、排水機場計画概要書を作成し、概ね目標は達成された。事業採択に向け、引き続き関係機関との協議を実施していく。
②	農村地域防災減災事業【ため池整備事業】	16,600	16,600	16,081	概ね目標は達成され、今後も継続して取り組む必要がある。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		23,600	21,608	20,725	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・清水地区排水機場 施設計画の再検討1式、計画概要書1式 ・ため池整備 基本設計1式、現地調査1式(測量・地質)

D
O
(
実
施
)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	01	03	農村地域防災減災事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	05	04	農村地域防災減災事業

整理番号
501010303

<p>30年度活動指標(アウトプット)の達成状況</p> <p>清水地区排水機場の計画概要書を作成し、事業化に向け関係機関との協議を実施した。</p>	<p>30年度成果指標(アウトカム)の達成状況</p> <p>清水地区排水機場について、千葉県から事業計画の承認を得た。</p>												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">妥当性の評価とその理由</th> <th colspan="2">有効性の評価とその理由</th> <th colspan="2">効率性の評価とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">A:妥当である</td> <td>住民の暮らしの安全の確保を図り、災害に強い農村づくりを実現するため公共事業にて施行する必要がある。</td> <td style="width: 15%;">A:有効である</td> <td>農業経営の安定や災害の未然防止を図る。</td> <td style="width: 15%;">B:やや効率的である</td> <td>県営事業で採択されることで、国の補助制度が活用でき、市及び地元の負担軽減が図れる。</td> </tr> </tbody> </table>		妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由		A:妥当である	住民の暮らしの安全の確保を図り、災害に強い農村づくりを実現するため公共事業にて施行する必要がある。	A:有効である	農業経営の安定や災害の未然防止を図る。	B:やや効率的である	県営事業で採択されることで、国の補助制度が活用でき、市及び地元の負担軽減が図れる。
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由									
A:妥当である	住民の暮らしの安全の確保を図り、災害に強い農村づくりを実現するため公共事業にて施行する必要がある。	A:有効である	農業経営の安定や災害の未然防止を図る。	B:やや効率的である	県営事業で採択されることで、国の補助制度が活用でき、市及び地元の負担軽減が図れる。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th colspan="2">「参加」の状況とその理由</th> <th colspan="2">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">A:実現している</td> <td>地元説明会</td> <td style="width: 15%;">A:実現している</td> <td>地元水利組合や関係者の意見を反映している。</td> <td style="width: 15%;">B:実現に向けて取り組んでいる</td> <td>地元水利組合や関係者と協議を実施している。</td> </tr> </tbody> </table>		「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由		A:実現している	地元説明会	A:実現している	地元水利組合や関係者の意見を反映している。	B:実現に向けて取り組んでいる	地元水利組合や関係者と協議を実施している。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由									
A:実現している	地元説明会	A:実現している	地元水利組合や関係者の意見を反映している。	B:実現に向けて取り組んでいる	地元水利組合や関係者と協議を実施している。								
<p>所管による評価とその理由、課題・問題点</p> <p>B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 県営事業の採択に向け一定の進捗が図れたが、採択までは期間を要するものであり、引き続き関係機関と協議する必要がある。</p>													
<p>企画政策課での評価とその理由</p> <p>B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 排水機場事業、ため池整備事業ともに、当初の計画を達成しており、成果が認められる。引き続き、排水機場については事業採択に向け協議、ため池については事業計画書の作成を完了させるよう、事業を推進するものとする。</p>													
<p>政策調整会議での評価とその理由</p> <p style="text-align: center;">(この欄は斜線が入っています)</p>													
<p>庁議における方針</p> <p style="text-align: center;">(この欄は斜線が入っています)</p>													

<p>令和元年度活動指標(アウトプット)の設定</p> <p>清水地区排水機場の事業計画の承認にかかる関係機関協議</p>	<p>令和元年度成果指標(アウトカム)の設定</p> <p>事業計画の承認(国)</p>
<p>令和元年度における具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水地区排水機場の県営事業による事業化 ・ため池整備にかかる事業計画書の作成 	<p>令和元年度における事務事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水地区排水機場の早期事業化に向け、関係機関と協議を進める。 ・ため池整備にかかる事業計画書の作成を完了する。

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	02	01	有害鳥獣駆除事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	08	有害鳥獣駆除事業

実施計画整理番号	
501020101	
総合戦略整理番号	12404

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	有害鳥獣による農作物被害、並びに生活環境の保全及び自然環境を保全するために、駆除や防除を行い、優良農地の保全を図る。捕獲した野生獣の毛皮などを使用した加工品などの副産物化を推進する。	鳥獣被害対策協議会を設立し、負担金を交付することにより、捕獲や電気柵設置などの有害鳥獣対策を実施する。加工品などの副産物化について調査研究を実施する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	有害鳥獣の駆除による農作物、農地被害の軽減に努め、優良農地の確保と地域環境の維持・保全を図る。また、有害鳥獣の捕獲・殺処分増加に伴う職員の負担軽減を図る。	協議会が委託する民間企業による捕獲業務を実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	19,246	19,772	15,215	19,201	21,956	20,711	23,210	0	0	23,210	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	2,483	2,483	1,821	2,483	1,970	4,103	5,820	0	0	5,820	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	30	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	16,733	17,259	13,394	16,688	19,986	16,608	17,390	0	0	17,390	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	鳥獣被害防止対策協議会負担金	18,701	19,161	18,182	協議会による従事者委託により円滑に捕獲業務を遂行できた。イノシシ228頭捕、アライグマ443頭、ハクビシ59頭、シカ1頭捕した。今後も捕獲強化を図る。
②	野生獣防護柵設置事業	500	1,000	749	補助金を交付することで、電気柵849aを設置し被害軽減を図った。引き続き推進する。
③	イノシシ棲み家撲滅特別対策事業補助金	0	1,780	1,780	イノシシの棲み家となる耕作放棄地等4.6haの草払いをすることで農村部からの追い払いを図った。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		19,201	21,941	20,711	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

猟友会等の従事者委託によって捕獲業務を実施し、イノシシの捕獲数を増加させた。これにより農作物や農地被害の軽減につながっており、職員の作業負担も軽減されている。しかしながら、個体数は増加しているようで、生息域の拡大が見られ、新たな地区において被害が発生してきている。イノシシの棲み家となる耕作放棄地等の草払いをすることで農村部からの追い払いを図った。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501020101
5	01	02	01	有害鳥獣駆除事業	5	01	03	08	有害鳥獣駆除事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	協議会による民間企業への委託によって、捕獲の実施及び捕獲用檻の増設により多くの有害鳥獣を捕獲した。捕獲数(イノシシ228頭、アライグマ443頭、ハクビシン59頭、ニホンジカ1頭)、わな設置(イノシシ用88基、小動物用89基)被害面積1.5ヘクタール(わかしお共済調べ)				民間企業への委託による捕獲で農作物や農地被害の軽減に繋がっている。職員の作業負担も軽減されている。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	個体数が増加し、生息域が拡大していると見られ、新たな地区においても被害が発生してきているため実施は妥当である。	A:有効である	捕獲を実施することで、個体数増加の抑制、農作物や農地の被害を軽減できる。職員の作業負担も軽減できている。	A:効率的である	民間の団体を活用した捕獲、被害多発地域に重点的に檻、わなを設置し捕獲している。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	檻設置をするうえでは地元自治会や農家組合等と調整をして実施している。	A:実現している	檻設置をするうえでは地元自治会や農家組合等と調整をして実施している。	A:実現している	檻設置、捕獲個体回収時等には地元自治会や農家組合等と立会いのもと実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	民間団体への委託によって団体のノウハウを活用した捕獲業務を実施し、イノシシ捕獲数を増加させた。これにより農作物や農地被害の軽減につながっている。職員の作業負担も軽減されている。しかしながら、個体数が増加し、生息域が拡大していると見られ、新たな地区においても被害が発生してきている。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	多くの有害鳥獣を捕獲しており、被害面積が縮小していることから、成果が認められる。引き続き、関係機関と連携し、被害の軽減に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	協議会による捕獲体制の構築、捕獲用檻の増加				捕獲頭数、被害面積の減少			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
協議会が委託する民間企業による捕獲業務を実施する。				有害鳥獣の駆除による農作物、農地被害の軽減に努め、優良農地の確保と地域環境の維持・保全を図る。また、有害鳥獣の捕獲・殺処分の増加に伴う職員の負担軽減を図る。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	02	02
農業経営基盤強化促進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	02
農業経営基盤強化促進事業			

実施計画整理番号	
501020201	
総合戦略整理番号	11204

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>農業振興地域整備計画に関する重要事項の協議をおこなう。 経営感覚の優れた農業者の育成と、経営規模の拡大、収益性の高い施設型農業への転換を支援する。 農地中間管理機構を利用して農地の集積・集約を推進する。 企業の農業分野への進出を支援する。</p>	<p>茂原市農業振興地域整備促進協議会を開催し整備計画を見直しする。 農業近代化資金利子補給金及び農業経営基盤強化資金利子補給金を交付する。 農地中間管理機構を利用した者に対して協力金を交付する。 企業の農業分野への進出について調査研究を行う。</p>
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
<p>農業振興地域整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。 利子補給を実施して担い手の育成を図る。 農地中間管理機構による担い手への集積を推進する。</p>	<p>農業振興地域整備促進協議会を開催して重要事項の協議を行う。また、整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。 利子補給は、平成30年度の貸付残高に対して利子補給を実施する。 農地中間管理機構による集積を推進し、担い手の集積を支援する。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	7,720	7,720	6,086	8,097	14,865	4,754	3,432	0	0	620	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	332	332	7	332	2,272	2,192	1,992	0	0	190	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	7,388	7,388	6,079	7,765	12,593	2,562	1,440	0	0	430	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市農業振興地域整備促進協議会の開催	180	180	86	農業振興地域整備計画の適切な運用のため、協議会を開催し、重要事項の協議を行った。平成30年度見直しに向け引き続き実施予定。
②	農業振興地域整備計画見直し業務委託	7,210	8,100	0	農業振興地域整備計画の見直し業務を実施した。平成30年度に農業振興地域整備計画を策定し運用する。
③	農業近代化資金・農業経営基盤強化資金の利子補給	283	392	137	農業近代化資金借入者及び農業経営基盤強化資金借入者への利子補給を実施。今後も継続して実施する。
④	茂原市機構集積協力金	424	2,525	874	貸付者2名、借受者3名に対し協力金を交付した。
⑤	被災農業者向け事業補助金	0	3,668	3,657	台風24号により被災した経営体14件に対し、農産物の生産に必要な施設復旧支援を行った。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		8,097	14,865	4,754	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>農業振興地域整備計画の適切な運用のため、協議会を開催し、重要事項の協議を行った。 農業近代化資金借入者及び農業経営基盤強化資金借入者への利子補給を実施した。 農地中間管理事業を利用した農業者に対し農地中間管理機構集積協力金を交付した。 台風により被災した経営体に対し、被災農業者向け事業補助金を交付し施設の復旧を行った。</p>

PLAN (計画)

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501020201
5	01	02	02	農業経営基盤強化促進事業	5	01	03	02	農業経営基盤強化促進事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	農業振興地域整備促進協議会を2回開催した。担い手への利子補給2名に5,530円を利子補給した。農地中間の取組者2名に協力金874,000円を支給した。				農業振興地域整備促進協議会を2回開催し、現在県と協議中。利子補給2名5,530円より、担い手の負担軽減による営農の安定を図った。農地中間の協力金の支給により2.7haの集積を図った。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	農用地の保全、担い手の育成支援、農業経営基盤の強化は農業振興の基礎である。	A:有効である	農用地が適切に管理されている。担い手の営農意欲の維持拡大に繋がっている。	A:効率的である	協議会は関係者の意見聴取ができる。利子補給効果的にできる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	協議会で情報共有を図れる。取組状況を周知することで他の農業者も取り組み気運を醸成させる。	A:実現している	協議会は関係者の参加により実施。利子補給農業者自らの取り組みを支援するものである。	A:実現している	協議会は関係者の参加により実施。利子補給は農業者自らの取り組みを支援するものである。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農業振興地域整備促進協議会を2回開催して重要事項の協議を行うことができた。利子補給により農業経営を支えることができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	利子補給による担い手の育成や、農地の集積の推進は、一定の成果があると認められる。引き続き、農業振興地域整備計画の見直しをするものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	農業振興地域整備計画見直しの県協議を終え、取りまとめる。 利子補給人数 2名 集積件数、面積 1名、20a				農業振興地域整備計画の全体見直しにより農地の確保を図る。 利子補給により負担軽減による営農の安定を図る。 農地中間の協力金の支給により集積を図る。			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
農業振興地域整備促進協議会を開催して重要事項の協議を行う。また、整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。利子補給は、平成30年度の貸付残高に対して利子補給を実施する。農地中間管理機構による集積を推進し、担い手の集積を支援する。				農業振興地域整備計画の全体見直しを実施し、計画を策定する。利子補給を実施して担い手の育成を図る。農地中間管理機構による担い手への集積を推進する。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	03	02
稲作生産効率化促進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	03
稲作生産効率化促進事業			

実施計画整理番号	
501030201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	産業用無人ヘリコプターによる薬剤の空中散布を実施することで農作業の省力化を図り、米の安定的な収穫と品質の向上を図る。	産業用無人ヘリコプターによる病害虫防除を実施する。農家負担額を長生郡内で同一水準にするよう補助金を交付する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
農作業の省力化を図るとともに良質の米の生産を維持する。	茂原市植物防疫協会が実施主体となり、水稻病害虫防除の実施にあたって、農家組合長会議を開催する。7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内600ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行う。その後、負担金の徴収事務を実施する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,260	2,260	2,260	2,277	2,226	2,226	2,256	0	0	2,274	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,260	2,260	2,260	2,277	2,226	2,226	2,256	0	0	2,274	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市植物防疫協会の運営支援	201	201	201	事業実施に必要な電算システム委託などの事務経費に対して補助を行った。今後も継続して実施する。
②	水稻広域航空防除の事業支援	2,076	2,025	2,025	事業実施に必要な農薬代、散布費用、作業手当などの経費に対して補助を行った。今後も継続して実施する。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,277	2,226	2,226	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・水稻病害虫防除は、茂原市植物防疫協会が実施主体となり、実施するにあたっての農家組合長会議を開催した。 ・7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内566ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行い、良好な結果を得ることができた。 ・負担金の徴収事務を実施した。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501030201
5	01	03	02	稲作生産効率化促進事業	5	01	03	03	稲作生産効率化促進事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	7月18日～20日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内566ヘクタールに実施した。				いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除は良好な結果を得ることができた。 散布を実施した566ヘクタールにおいては病害虫発生による被害は確認されなかった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	病害虫の発生を防止し良質な米を生産するために、確実性、安全性に配慮して実施している。	A:有効である	病害虫の発生を防止し良質な米を生産できている。	A:効率的である	3日間での一斉防除により効率的に病害虫を防除できている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	農家には農家組合長を通じて周知、市民には広報やチラシにより周知している。	A:実現している	農家組合長において申込書等の取りまとめ、散布作業の人員動員を実施している。	A:実現している	農家組合長において申込書等の取りまとめ、散布作業の人員動員を実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	米の価格が不安定な情勢の中において、良質な米の生産及び収量の確保は重要であり、病害虫を防除することは必須である。共同防除を実施することで、短期間に一斉防除が行えるため効果的・効率的である。また、農業者の作業負担も軽減できる。課題としては、農家が負担する散布料が近隣町村と比較すると高いので、農家の経済的負担を軽減するためには近隣町村と同水準の負担額にすることが望ましい。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	事業の実施により、農作業の省力化・良質な米の生産の維持という当初の目標が達成されたと認められる。引き続き、円滑な実施に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	散布面積				病害虫の発生なく生産した面積			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
茂原市植物防疫協会が実施主体となり、水稻病害虫防除の実施あたって、農家組合長会議を開催する。7月17日～19日に産業用無人ヘリコプターによる農薬散布を市内600ヘクタールに実施し、いもち病、カメムシ類、ウンカ・ヨコバイ類の防除を行う。その後、負担金の徴収事務を実施する。				農作業の省力化を図るとともに良質な米の生産を維持する。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	03	03	農業者育成支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	09	農業者育成支援事業

実施計画整理番号	
501030301	
総合戦略整理番号	12401

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	新規就農者には技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、国の新規就農総合支援事業を活用し、農業次世代人材投資資金の交付を行い、就農意欲の喚起と就農後の定着を図る。	農業次世代人材投資資金を交付する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	交付金事業を活用して新規就農者の確保・育成を図り、農業従事者の高齢化、後継者不足を解消する。	農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、5名に対して交付予定。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	4,500	5,125	3,981	4,500	10,500	6,000	9,000	0	0	9,000	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	4,500	4,500	3,356	4,500	10,500	6,000	9,000	0	0	9,000	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	625	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	625	0	0	0	0	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	新規青年就農者への交付金を支給	4,500	10,500	6,000	新規就農者5名に交付を行った。引き続き新規青年就農者を支援し、経営の安定と定着を図る。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		4,500	10,500	6,000	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、5名に対して交付金を交付した。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501030301
5	01	03	03	農業者育成支援事業	5	01	03	09	農業者育成支援事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	新規就農者5名に対し600万円の交付を行った。				新規就農者の経営が不安定な就農直後5年以内の技術の習得や所得の確保を図ることができた。(対象者6名)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	新規就農者を定着させるため国の交付金制度に沿った交付を行っている。	A:有効である	新規就農者の経営安定と定着を図るため有効な事業である。	A:効率的である	新規就農者に使い道を定めない交付金は、営農活動を継続する上で効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。	A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。	A:実現している	新規就農者に営農継続に資する情報を提供するとともに、就農状況を現地確認を行うなど逐次把握している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっているなかで、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、5名に対して交付金を交付した。これにより新規就農者の営農継続を支援することができた。課題としては、本市の農業振興を図るためには新規就農者を増やしていかなければならないことから更なる対象者の掘り起こしが必要である。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	交付金の交付により、新規就農者の営農継続支援に一定の成果があったと認められる。引き続き、農業振興を図るため、新規就農者の掘り起こしに努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	交付金の交付額				交付を受けた新規就農者			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
農業従事者の高齢化が進むなか、新規就農者の技術の習得や所得の確保が課題となっていることから、経営が不安定な就農直後5年以内の所得の確保を図るため、7名に対して交付予定。				交付金事業を活用して新規就農者の確保・育成を図り、農業従事者の高齢化、後継者不足を解消する。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	01	04	01
需給調整推進事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
5	01	03	01
需給調整推進事業			

実施計画整理番号	
501040101	
総合戦略整理番号	12401

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>茂原市地域農業再生協議会及び農業者に対して、新規需要米の作付けなど需要に応じた米の生産や、転作作物の作付けによる食料自給率向上の取組を推進し、農業の経営改善を目指す。</p>	<p>茂原市地域農業再生協議会に需要に応じた米の生産や転作作物の作付けによる食料自給率向上の取組推進・確認のための事務経費の補助、取組を実施した農業者には対象となる経費の補助を行う。新規需要米に取組む生産者に対し補助金を交付する。</p>
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
<p>飼料用米等拡大支援事業の申請実績、飼料用米等の取付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績。</p>	<p>飼料用米等の転作作物の取組者を支援し、生産拡大を図るとともに、農家組合と連携し、需要に応じた生産が行われるよう情報を周知する。また、各種補助事業や経営所得安定対策を推進するため、農家への周知や確認事務等を円滑に実施する。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	13,883	14,682	9,804	13,883	19,829	17,310	15,190	0	0	16,619	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	8,939	8,939	4,071	8,939	10,441	7,466	7,976	0	0	9,400	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	2,000	2,000	2,000	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,944	3,743	3,733	2,944	9,388	9,844	7,214	0	0	7,219	0	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	飼料用米等の作付け支援	2,390	3,290	2,411	飼料用米等の作付けを実施した農業者に対し支援を実施した。今後も継続的に支援を実施する。
	②	経営所得安定対策の推進	1,888	1,612	1,466	経営所得安定対策の推進活動を円滑に実施した。今後も継続的に実施する。
	③	地域農業者との連絡調整	898	893	891	農家組合との連携が図れた。今後も、連携を図る。
	④	地域活性化を目指した転作作物作付けの推進	2,000	2,000	2,000	転作作物を活用したイベントに対し支援を実施し、地産地消の推進、地域の活性化を図った。今後も転作作物の作付けの推進を行う。
	⑤	茂原市独自の新規需要米の作付け支援	1,950	6,500	5,018	新規需要米を推進し、44名の農業者を支援した。今後も引き続き推進し、取組者を支援する。
	⑥	飼料用米等の流通加速化支援	1,424	0	0	飼料用米等の流通体制確立のための施設整備にあたり、農業者を支援した。今後も飼料用米等の生産拡大が必要のため、支援を実施する。
	⑦	産地競争力強化に向けた集落営農の推進	3,333	5,524	5,524	営農組織1件に対し、大型機械の導入を支援した。今後も引き続き、施設整備や機械等を支援する。
	⑧		0	0	0	
	⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0		
事業費計		13,883	19,819	17,310		

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・飼料用米等の転作作物の作付け者に補助金を交付し、転作の取り組みに対し支援した。
- ・農家組合と連携して、需要に応じた生産が行われるよう情報等の周知を図った。
- ・経営所得安定対策を推進するための農家への周知や確認事務を円滑に実施した。
- ・転作作物を活用したイベントに補助金を交付し、地産地消の推進、地域の活性化を図った。
- ・営農組織に対し、大型機械の導入を支援し効率化を図った。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040101
5	01	04	01	需給調整推進事業	5	01	03	01	需給調整推進事業	

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
飼料用米等拡大支援のため、パンフレットの配布や集落等への説明会を実施し、農家組合との連携を図った。農家組合長会議等において経営所得安定対策を推進した。				飼料用米等拡大支援事業申請件数 44件 飼料用米等作付面積 100.9ha 経営所得安定対策等交付金申請件数 57件			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
A:妥当である	国、県が施策として実施する需要に応じた米生産や経営所得安定対策の推進事業である。	A:有効である	農業をとりまく社会経済情勢の変化に応じた支援事業の展開であり有効である。	A:効率的である	国が実施する事業であり、市も適切に実施している。		
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
A:実現している	各種会議や回覧により農家組合との連携を図り情報の共有を図っている。	A:実現している	関係機関等からなる茂原市地域農業再生協議会による協議を行っている。需給調整の実施者は農業者である。	A:実現している	関係機関等からなる茂原市地域農業再生協議会による協議を行っている。需給調整の実施者は農業者である。		
所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	主食用米の価格安定と食糧自給率の向上を図るためには、米の需給調整は重要な要素であり、飼料用米等の取り組みを支援することで、生産の推進が図れた。農家組合と連携して需給調整等に関する情報を周知することができた。県の補助事業によって経営所得安定対策を推進するための農家への周知や確認事務等を適切に実施できた。飼料用米の作付けが拡大したことで、米価の安定に繋がるかは不透明な部分も多いが、本市の土地質としての転作作物としては飼料用米等の作付けを更に推進する選択肢が有効であると考えられるため、今後も推進するためには上乗せ給付や農業機械導入の補助などを検討しなくてはならない。						
企画政策課での評価とその理由							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	飼料用米等の作付面積が拡大しており、一定の成果が認められる。引き続き、需要に応じた米の生産を推進し、農業経営所得の安定に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由							
庁議における方針							

A C T (改 善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	飼料用米等拡大支援事業の推進、経営所得安定対策等の会議開催				飼料用米等拡大支援事業の申請実績、飼料用米等の作付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
飼料用米等の転作作物の取り組み者を支援し、生産拡大を図るとともに、農家組合と連携し、需給調整等に関する情報を周知する。また、各種補助事業や経営所得安定対策を推進するため、農家への周知や確認事務等を円滑に実施する。				飼料用米等拡大支援事業の申請実績、飼料用米等の作付実績、経営所得安定対策等交付金の交付申請実績				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	04	園芸農産振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	04	園芸農産振興事業

実施計画整理番号	
501040401	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>良質な農産物を生産するためには機械化による生産の効率化が必須となっている。また、現在使用している機械の老朽化も激しく、各生産組合の生産者は高齢化も進んでいる。各組合を支援して産地間競争を制する産地化を目指す。 農業活動において排出される廃プラスチックの適正な処理を推進する。</p>	<p>各生産組合が実施する施設設置や機械導入、農業振興事業に対して補助金を交付する。 茂原市廃プラスチック対策協議会が実施する適正な廃プラスチック処理に対し補助金を交付する。</p>
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
<p>生産管理機械、ネギの省力化機械を導入し、産地強化を図る。市場シェアの回復を目指す。</p>	<p>園芸6団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援する。市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援する。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図る。「ちばの園芸」の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援する。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,340	2,340	972	2,340	27,183	26,185	2,524	0	0	1,607	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	1,357	1,357	71	1,357	25,378	24,592	771	0	0	771	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	163	163	163	163	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	820	820	738	820	1,805	1,593	1,753	0	0	836	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	「輝け！ちばの園芸」による産地整備支援	1,210	25,378	24,506	営農組織2件が採択され産地強化を図った。今後も、産地整備のため補助事業により支援を継続する。
②	園芸農産特産地の育成支援	365	1,000	1,000	園芸団体の機械化等の取り組みを支援した。産地強化のため支援を継続する。
③	茂原市園芸協会の運営支援	435	435	435	園芸振興のための活動を支援した。園芸振興を継続して実施する。
④	園芸用廃プラスチックの適正処理支援	310	310	184	園芸用廃プラスチックの適正な処理を、県補助事業に基づき実施。産業廃棄物の適正な処理を継続する。
⑤	研修負担金	20	60	60	研修により園芸振興や産地強化を図る。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,340	27,183	26,185	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> 園芸6団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援した。 市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援した。 園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図った。 園芸農業の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援した。

PLAN (計画)

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040401
5	01	04	04	園芸農産振興事業	5	01	03	04	園芸農産振興事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	園芸6団体の機械化の取り組みを支援した。園芸振興として産業まつりへの参加活動を支援した。園芸用廃プラスチックの適正処理の支援を行った。				葉たばこ生産組合、茂原蔬菜出荷組合、本納蔬菜部、本納施設野菜組合、本納いちご生産組合、椎茸組合の機械化に100万円を補助し産地強化を図った。産業まつりは41出店があり、約2,900名の来場があった。園芸用廃プラスチックの適切な処理(8.82トン処理)により環境保全と施設園芸などの健全な発展を図った。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	産地強化を図るうえでは機械化等の取り組みは必要不可欠である。	A:有効である	意欲のある園芸生産団体を支援することは農業振興を図るうえでは有効である。	A:効率的である	機械化等の取り組みは効率的な生産を図ることができる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	理事会、総会、各打ち合わせにより生産者の意見、行政からの情報、園芸情勢の情報を共有している。	A:実現している	理事会、総会、各打ち合わせにより生産者の意見、行政からの情報、園芸情勢の情報を活用して生産に取り組んでいる。	A:実現している	産業まつりの出店など良質な野菜等の生産販売を通じて地産地消の取り組みなど園芸振興を実践している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	園芸6団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援することができた。産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援することができた。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図ることができた。課題としては、収益性の高い園芸農産の推進のため、常に進化している生産用施設・省力化機械の更なる導入が必要である。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	園芸6団体の機械化の支援、園芸振興活動支援、廃プラスチックの適正な処理が行われており、当初の計画を達成していると認められる。引き続き、生産用施設・省力化機械の導入を支援し、収益性の高い園芸農産の推進に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	各園芸農産振興事業への補助金の交付				導入された機械等による生産性の向上、廃プラスチックの適正処理			
	令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール			
園芸6団体の産地強化のための機械化の取り組みを支援する。市産業まつりへの出店など園芸振興のための活動を支援する。園芸用廃プラスチックの円滑な回収と適正な処理を行うことで環境保全と施設園芸などの健全な発展を図る。「ちばの園芸」の生産力を強化拡大することを目的に県の補助事業を活用して省力機械等の導入を支援する。				生産管理機械、ネギの省力化機械を導入し、産地強化を図る。市場シェアの回復を目指す。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	06	畜産振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	04	01	畜産振興事業

実施計画整理番号	
501040601	
総合戦略整理番号	0

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	畜産の振興を図るとともに、家畜伝染病に対する自主的な防疫活動を推進して畜産経営の安定を図る。	自衛防疫の一環である予防接種費用に対する補助を行う。 畜産団体の運営に対する補助を行う。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	市内畜産農家を支援するとともに、家畜伝染病の発生を未然に防ぐための防疫事業を実施する。	・畜産農家に対して、牛アカバネ病、チュウザン病等の3種混合の予防接種を実施して家畜伝染病の発生を防ぐ。 ・茂原市酪農組合における共進会の参加などを支援する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	175	175	171	175	155	155	161	0	0	132	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	175	175	171	175	155	155	161	0	0	132	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市家畜伝染病予防会の支援	100	100	100	牛アカバネ病、牛三種混合の予防接種に対し支援を行った。今後も継続して取り組む必要がある。
②	茂原市酪農組合の支援	32	34	34	家畜排せつ物の管理の適正化、利用促進の振興、乳牛共進会等の事業に対する支援を実施した。今後も継続して取り組む必要がある。
③	長生地域畜産振興協議会への参加	43	21	21	情報交換と連絡強化を図り畜産振興のための調査研究を行うことで、概ね目標が達成された。今後も継続して取り組む必要がある。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		175	155	155	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・牛アカバネ病、牛三種混合の予防接種を実施し、家畜伝染病の防疫活動に努めた。 ・茂原市酪農組合における乳牛共進会の参加を支援し、酪農振興を図った。

D
O
(
実
施
)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040601
5	01	04	06	畜産振興事業	5	01	04	01	畜産振興事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	牛アカバネ病43頭、牛三種混合21頭の予防接種に対し支援を行った。茂原市酪農組合の会議を2回開催した。				予防接種や自主防疫等の実施により市内において家畜伝染病の発生は確認されなかった。茂原市酪農組合から乳牛共進会への出展はなかった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	防疫活動は畜産振興を図る上で必要不可欠であり、市が関与すべき事業である。	A:有効である	家畜伝染病を未然に防止することで安定した畜産経営が図れる。	A:効率的である	予防接種の実施により、家畜伝染病を未然に防ぐことができる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	長生地域畜産振興協議会において情報の共有を図っている。	A:実現している	畜産農家や関係機関と協議を実施している。	B:実現に向けて取り組んでいる	長生地域全体で、畜産振興・防疫活動を実施している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	防疫活動により家畜伝染病の発生は確認されず、概ね目標は達成された。課題としては、畜産農家の減少に対応するため、畜産振興事業の拡大や家畜伝染病の発生に備えた防除体制の確立する必要がある。						
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	家畜伝染病の発生は確認されず、防疫活動による成果が認められる。引き続き、防疫活動を継続し、畜産経営の安定を図るよう努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	予防接種の実施、茂原市酪農組合の会議開催				家畜伝染病に対する防疫、乳牛共進会の参加頭数			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・家畜伝染病を未然に防止するため、予防接種を実施する。 ・茂原市酪農組合における乳牛共進会の参加を支援する。 				家畜伝染病の防疫活動を支援し、畜産経営の安定を図る。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	07	環境にやさしい農業推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	11	環境にやさしい農業推進事業

実施計画整理番号	
501040701	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	農業の持続的発展を図るためエコファーマーの認定促進や有機農業などの環境にやさしい農業を推進する。また、環境負荷の軽減に配慮した営農活動に取り組む農業者団体等の追加的コストを支援し、環境にやさしい農業の推進を図る。	自然環境の保全に資する農業生産活動を実施する生産者や農業者団体に補助金(交付金)を交付する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を維持する。	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を実践する農業者団体に対して支援する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	294	294	87	320	349	114	143	0	0	143	0	0
財源内訳	国補助	千円	147	147	0	160	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	73	73	65	80	261	85	106	0	0	106	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	74	74	22	80	88	29	37	0	0	37	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	環境保全型農業直接支払金の交付	320	349	114	化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みにカバークロープを組み合わせた取り組みに支援した。今後も対象者に対し支援する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		320	349	114	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みにカバークロープを組み合わせた取り組みに支援した。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501040701
5	01	04	07	環境にやさしい農業推進事業	5	01	03	11	環境にやさしい農業推進事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	環境農業直接支払は農業者団体1団体に対して支援した。				農業者団体1団体の環境にやさしい農業を実施した。 面積:1.4ha			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	環境直接支払は環境にやさしい農業の基礎である。	A:有効である	環境と調和した農業は必要である。	A:効率的である	環境直接支払については、環境にやさしい農業が効率的にできる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	取り組み状況を周知することでほかの農業者も取り組み気運を醸成させる。	A:実現している	環境直接支払は農業者自らの取組みを支援するものである。	A:実現している	環境直接支払は農業者自らの取組みを支援するものである。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	環境保全型農業直接支払により、農業での実践を支援し自然環境の負荷軽減を図った。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	作付面積が拡大しており、一定の成果が認められる。今後も取り組み状況を周知し、気運の醸成に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	カバークロープの作付に対し支援する。				カバークロープ取組み面積			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を維持する。				化学肥料と化学合成農薬を軽減する取り組みと併せて行うカバークロープの作付により環境にやさしい農業を実践する農業者団体に対して支援する。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	08	茂原六斎市再活性化事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	10	茂原六斎市再活性化事業

実施計画整理番号	
501040801	
総合戦略整理番号	32104

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原六斎市再活性化協議会が実施する様々な活動やイベント等により、歴史ある茂原六斎市の再活性化を図る。 農業者による新鮮野菜等の新たな販路となることで農業生産を豊かなものにする。	茂原六斎市再活性化協議会の実施する活動を推進するため補助金を交付する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催により六斎市を活性化する。 ・出店者の加入促進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催会議などを開催し、歴史ある六斎市の活性化を図る。 ・イベントの開催。 ・新規出店者の加入促進。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	150	150	150	150	150	150	150	0	0	150	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	150	150	150	150	150	150	150	0	0	150	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原六斎市再活性化協議会の支援	150	150	150	イベントを開催し活性化を図った。今後も支援を継続する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		150	150	150	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との共催でイベントを開催した。 ・広報等に掲載して、出店者を募集した。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	04	08	茂原六斎市再活性化事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	10	茂原六斎市再活性化事業

整理番号
501040801

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	イベントを開催した。(1回)		イベント時には出店数が17店増加した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	歴史ある六斎市の衰退に歯止めをかけ、生産者と消費者の交流の場を確保することが出来るため有効である。	A:有効である	生産者と消費者の交流の場を確保することが出来るため有効である。	A:効率的である	再活性化が図れるため、効率的である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	広報、チラシ等による情報の共有が出来ている。	A:実現している	生産者と消費者(市民等)が直接交流出来ている。	A:実現している	生産者と消費者(市民等)が直接交流し、問題等の解決に取り組んでいる。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体との共催でイベントを開催。生産者と消費者(市民等)の交流を図った。 広報等に掲載し出店者を募集したところ、イベント時の出店数が増加した。 				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	イベントが開催されており、出店数も増加していることから、当初の目標は達成したと認められる。引き続き、生産者と消費者のニーズを把握しながら、茂原六斎市再活性化に努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定		令和元年度成果指標(アウトカム)の設定	
	協議会の活動やイベントを推進する		出店数の増加 にぎわいの増加	
令和元年度における具体的な目標		令和元年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> イベント開催会議などを開催し、歴史ある六斎市の活性化を図る。 イベントの開催。 新規出店者の加入促進。 		<ul style="list-style-type: none"> イベントの開催により六斎市を活性化する。 出店者の加入促進をする。 		

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	01	05	01	農産物直売所運営支援費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
5	01	03	07	農産物直売所運営支援費

実施計画整理番号	
501050101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	消費者に地元で収穫された新鮮で安全安心な農作物を供給する直売所の充実を図る。併せて、直売所の需要に合わせた少量多品種の農作物生産を推進することで、生産者の所得安定と農業振興を図る。	安定的な農作物の供給を図るため、直売所の適切な維持管理に努める。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	新店舗と合わせて継続して用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を消費者に供給する直売所の安定した運営を行う。	通年で安全・安心な農産物を消費者に供給する。本市農業の活性化の拠点としての役割を担う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	784	784	784	2,084	3,487	3,472	2,292	0	0	1,978	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	686	686	686	686	1,971	1,958	1,958	0	0	1,958	0	0
	一般財源	千円	98	98	98	1,398	1,516	1,514	334	0	0	20	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	直売所施設用地の借上	2,044	1,971	1,958	用地を借り上げるにより直売所の安定した運営ができた。今後も地産地消を進め農業振興を図る。
②	農産物直売所運営支援	40	220	218	生産者、消費者のニーズ等を把握し農業振興・地産地消及び直売所の安定運営を図る。
③	農産物直売所施設整備工事	0	1,296	1,296	エアコン室外機を移設し騒音の軽減を図った。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,084	3,487	3,472	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を消費者に供給する直売所の安定した運営ができ、併せて地産地消の推進を図った。	

PLAN (計画)

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	501050101
5	01	05	01	農産物直売所運営支援費	5	01	03	07	農産物直売所運営支援費	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況					30年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	借上げ地 茂原市法目807-1 面積1,527㎡ 731,585円/年 法目920 面積2,559㎡ 1,226,016円/年					直売所の売上げ額 2億5,962万4,144円 来客数 196,143人 組合員数 212人				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 生産者、消費者のニーズとして直売所の設置は必要であり、これにより農業振興が図られる。			A:有効である 新鮮で安全・安心な農産物を供給する直売所の設置は農業振興を図る手段として有効である。			A:効率的である 多数の生産者が加入している直売所を支援することは効率的である。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している 直売所の運営会議において生産動向や行政情報などの連携を図っている。			A:実現している 直売所だけでなく市の各種イベントにも出店し、地産地消や農業振興を図っている。			A:実現している 直売所だけでなく市の各種イベントにも出店し、地産地消や農業振興を図っている。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を供給する直売所の安定した運営ができ、併せて地産地消の推進を図った。また、平成30年4月から新店舗をオープンし規模を拡大して、地域農業の拠点施設となるよう充実を図ったことで、売上げ・来客数ともに約1.4倍増加した。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		規模拡大により、売上げ・来客数とも大幅に増加しており、直売所の充実に成果があったと認められる。引き続き、地産地消の推進を図るため、直売所の充実に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定					令和元年度成果指標(アウトカム)の設定				
	借上げ地代・土地面積					直売所の売上げ額、来客数、組合員数				
令和元年度における具体的な目標					令和元年度における事務事業スケジュール					
新店舗と合わせて継続して用地を借り上げるにより、新鮮で安全・安心な農作物を消費者に供給する直売所の安定した運営を行う。					通年で安全・安心な農産物を消費者に供給する。本市農業の活性化の拠点としての役割を担う。					

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	01	企業立地促進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	06	企業立地促進事業

実施計画整理番号	
502020101	
総合戦略整理番号	11101

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原には工業団地を核とした企業立地を促進し、本市における就業機会の拡大、定住人口の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致活動に有効な企業データを早期に取得し、企業動向を踏まえた効果的かつ効率的な企業訪問を実施する。 進出した指定事業者に対し奨励金を交付する。 茂原には工業団地の早期分譲を目指し整備を推進する。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 茂原には工業団地へ進出する企業と地元既存企業との取引機会の創出、地元経済の活性化を図るため企業交流会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業交流会の実施 ㈱ジャパンディスプレイの奨励金の交付 企業訪問 	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	704,135	861,863	851,205	201,048	200,673	200,644	463	0	0	463	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	331,500	331,500	460,900	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	372,635	530,363	390,305	201,048	200,673	200,644	463	0	0	463	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	企業誘致活動	1,048	673	644	企業訪問や千葉県主催の企業誘致セミナーの参加により、情報収集に努めた。引き続き、本市への企業誘致を実施していく。
	②	企業立地奨励金の交付	200,000	200,000	200,000	計画通りに奨励金を交付した。引き続き、条例に基づき奨励金を交付する。
	③		0	0	0	
	④		0	0	0	
	⑤		0	0	0	
	⑥		0	0	0	
	⑦		0	0	0	
	⑧		0	0	0	
	⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0		
事業費計			201,048	200,673	200,644	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

①茂原には工業団地へ進出する企業とのビジネスマッチングを目的とした企業交流会を2回開催。
 ②㈱ジャパンディスプレイに200,000,000円の奨励金を交付。
 ③三重県、大阪府、愛知県、東京都及び県内の各企業へ訪問。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020101
5	02	02	01	企業立地促進事業	6	01	02	06	企業立地促進事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	① 茂原にいはる工業団地へ進出する企業とのビジネスマッチングを目的とした企業交流会を2回開催した。 ・企業立地促進条例に基づき、㈱ジャパンディスプレイに200,000,000円の奨励金を交付した。 ・積極的に企業へ訪問を行った。				・茂原にいはる工業団地への企業の立地が進み、雇用及び税金の確保が図られた。 ・企業交流会に立地企業6社、マッチング希望企業計65社の参加があり、企業間の交流が図られた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	雇用の確保は重要な施策であり、総合計画においても、企業誘致の推進が位置付けられていることから妥当である、。	A:有効である	企業誘致が成し遂げられることにより、雇用の場の確保と定住人口の増加が図られることから有効である、。	A:効率的である	企業誘致のための情報収集や企業間の情報交換としての費用であり、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	ウェブページや広報を用いて、情報の共有を図った。	C:実現の余地がない		C:実現の余地がない			
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	茂原にいはる工業団地立地企業との地元企業の交流の機会が創出できた。企業誘致に関する情報収集を行うことができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	企業交流会の実施により、立地企業との地元企業の交流機会が創出され、一定の成果があったと認められる。引き続き、企業誘致に関する情報収集を行い、企業立地促進に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・立地希望企業に関する情報収集				・企業の立地及び雇用の増加			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
・立地希望企業に関する情報収集を行う。				・企業訪問				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	02	02	02
起業・創業支援事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	02	03
起業・創業支援事業			

実施計画整理番号	
502020201	
総合戦略整理番号	11201

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 起業者を支援することで本市における開業率を向上させ、地域の活性化、雇用の確保を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 新たに起業を目指す起業者に対し、創業しやすい環境を整備するとともに、補助金の交付により費用負担の軽減を図る。 特定創業支援事業としての、起業者及び創業後間もない事業者を対象とした、創業するために不可欠な事項を修得できるセミナーの開催を支援する。
平成30年度の具体的な目標 ・新規起業者を対象に、創業に係る経費の一部を補助する。 ・起業に関する実践的な知識の習得の場を提供する。 ・同じ志を持つ仲間との情報交換会やネットワークづくりの場を提供する。	平成30年度スケジュール ・新規起業者に対し補助金を交付する。 ・茂原商工会議所と連携し「茂原創業塾」を開講。 ・茂原商工会議所と連携し「ビジネスプランコンテスト・起業家交流会」を開催。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,507	2,259	1,851	2,357	3,107	1,500	2,157	0	0	2,157	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,507	2,259	1,851	2,357	3,107	1,500	2,157	0	0	2,157	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合支援補助金の交付	1,500	1,800	600	補助金の交付件数:2件 今後も継続する。
②	創業支援充実のための研修会等への参加	7	7	0	実績なし。必要に応じ、国等の説明会に参加し、情報収集に努める。
③	起業家対象セミナーの支援	850	800	750	茂原商工会議所が開催した創業塾を支援した。今後も継続する。
④	関係機関連携による創業機運の醸成	0	500	150	茂原商工会議所が開催した起業家交流会を支援した。今後も継続する。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,357	3,107	1,500	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・茂原商工会議所と協力し「茂原創業塾」及び「ビジネスプランコンテスト、起業家交流会」を開催。
- ・創業しようとする方に、創業に必要な経費の補助。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020201
5	02	02	02	起業・創業支援事業	6	01	02	03	起業・創業支援事業	

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・新規創業者に対し、補助金を交付することで、創業者の経済的な負担を軽減した。 ・茂原商工会議所が開催した創業塾及び起業家交流会を支援した。	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ・2人に対し、600,000円を支援した。 ・創業塾 修了者20名、交流会約40名参加	
妥当性の評価とその理由 A:妥当である 創業支援計画に基づく起業、創業支援であり、事業として妥当である。	有効性の評価とその理由 A:有効である 起業・創業者の経済的負担の軽減、起業・創業に向けた機運の醸成に寄与しており、有効である。	効率性の評価とその理由 A:効率的である 支援対象事業者や創業支援事業計画に位置付けた特定創業支援事業に対する支援のため、効率的である。
「情報の共有」の状況とその理由 A:実現している 支援制度をウェブページやパンフレット等で周知している。	「参加」の状況とその理由 A:実現している 創業・起業を考えている人であれば、創業塾や交流会には参加できる機会を提供している。	「協働」の状況とその理由 A:実現している 創業塾及び起業家交流会について、市内金融機関及び茂原商工会議所と連携し多様な主体と協働している。
所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 創業希望者や創業者に対して、各段階に応じた支援を茂原商工会議所及び市内金融機関と連携の上、実施し、地域経済の活性化に寄与した。		
企画政策課での評価とその理由 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 各種創業支援の実施により、一定の成果があったと認められる。引き続き、支援を実施することにより、地域活性化及び雇用の確保を図るものとする。		
政策調整会議での評価とその理由 (Blank)		
庁議における方針 (Blank)		

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 ・補助金のPR ・茂原商工会議所と連携して新規創業者の支援	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 ・補助金活用件数、金額
令和元年度における具体的な目標 ・新規創業者を対象に、創業に係る経費の一部を補助。 ・起業に関する実践的な知識の習得の場を提供。 ・同じ志を持つ仲間との情報交換の場やネットワークづくりの場を提供。	令和元年度における事務事業スケジュール ・対象者に対して補助金を交付。 ・茂原商工会議所を連携して「茂原創業塾」及び「企業家交流会」を開催。

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

実施計画整理番号	
502020202	
総合戦略整理番号	11202

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	企業が実施する主体的な取り組みを、幅広い分野で総合的に支援することにより、本市の中堅・中小企業の持続的な成長や振興を図る。	中小企業者等が抱える様々な問題解決のための取り組みに対して、補助金の交付により費用負担の軽減を図る。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	中小企業者等が取り組む販売促進活動や商品(技術)開発、雇用・人材育成、情報発信など、幅広い分野において包括的に支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・経営向上を目指した取組みを行う中小企業者に対し補助金を交付する。 ・随時、制度の周知を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,824	3,824	904	3,824	3,613	1,151	5,510	0	0	2,010	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	1,750	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,824	3,824	904	3,824	3,613	1,151	3,760	0	0	2,010	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	中小企業者等振興総合支援事業補助金の交付	3,600	3,600	1,138	販路拡大支援補助金:7件 人材確保・育成支援補助金:2件 引き続き支援を行う。
	②	「中小企業支援パンフレット」の作成	211	0	0	
	③	相談支援の充実のための研修会等への参加	13	13	13	国の制度説明会に参加。引き続き情報収集に努め
	④		0	0	0	
	⑤		0	0	0	
	⑥		0	0	0	
	⑦		0	0	0	
	⑧		0	0	0	
	⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0		
事業費計			3,824	3,613	1,151	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・経営向上を目指した取組みを行う中小企業者に対して補助金を交付。
- ・支援制度に関する相談等の対応。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020202
5	02	02	02	中小企業者等振興総合支援事業	6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業	

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
中小企業者に対し補助金を交付することで、中小企業者の経済的な負担を軽減した。				9社に対して、1,138,000円の補助金による支援を行った。			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
A:妥当である	茂原市の事業者数の多くを占める中小企業者の振興を支援することは、妥当である。	A:有効である	茂原市の事業者数の多くを占める中小企業者を支援することで、地域の振興を図ることは有効である。	A:効率的である	補助対象事業に対する補助金交付による支援であり、効率的である。		
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
A:実現している	支援制度をウェブページ、パンフレット等で周知している。	A:実現している	利用者の意見や実績により、補助対象事業を見直している。	A:実現している	茂原商工会議所や市内金融機関と連携し、利用促進に向けて取り組んでいる。		
所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	中小企業者の経営の向上、活性化に効果があったと思われるが、支援制度の中でも利用実績に差があり、中小企業者のニーズを把握し、支援メニューの検討を行う必要がある。						
企画政策課での評価とその理由							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	補助金活用件数が微増しており、一定の成果が認められる。引き続き、中小企業者のニーズ把握に努め、支援メニュー及び周知方法を検討するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由							
(Blank)							
庁議における方針							
(Blank)							

A C T (改 善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・中小企業者のニーズに応じた総合的な支援の実施				・補助金活用件数、金額			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
・中小企業者が取組む商品開発、販路拡大、情報発信及び人材育成などにおいて総合的な支援を行う。				・経営向上を目指した取組みを行う中小企業者に対し、補助金を交付する。 ・制度の周知を適宜行う。				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	02	02	02	ドローン利活用調査業務

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	06	茂原市総合戦略推進事業

実施計画整理番号	
502020203	
総合戦略整理番号	12101

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	新技術であるドローンへの関心を高め、ドローンやそれに関連する技術や人材を利活用して、新たな産業の創出や業務の効率化を促進する。	ドローン関連産業の個別事例、起業や効率化に関する調査、研究市内外に向けたドローン普及映像コンテンツの制作
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> ドローンを活用した新たな産業や雇用の創出、業務の効率化を促進するため、昨年の利活用調査の結果に基づきより専門的な技術見本市及びビジネスマッチングの開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ドローンの最新技術の展示などの技術見本市を開催。 展示企業による技術の特徴やサービスのデモンストレーションの開催。 ドローンを活用したビジネスマッチングを開催。 啓発のための媒体を作成する。 上記に関する報告書の作成

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,000	2,000	1,998	0	2,000	1,998	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国補助	千円	1,000	1,000	999	0	0	999	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,000	1,000	999	0	2,000	999	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ドローンの有効利活用調査	0	2,000	1,998	技術見本市、ビジネスマッチングを開催し、76名が参加。ドローン技術の情報収集と情報提供を行う。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		0	2,000	1,998	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

「もばらドローンEXPO2018」の開催。76名の参加。

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	502020203
5	02	02	02	ドローン利活用調査業務	2	01	09	06	茂原市総合戦略推進事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	平成30年11月16日(金)に茂原市民体育館において「もばらドローンEXPO2018」を開催 ・基調講演、出展企業9社による技術見本市・プレゼンテーション・デモフライト、ビジネスマッチングを開催 ・啓発フライヤーを配布 市内商工業者1300枚及び市内施設500枚 ・報告書の作成				ドローン技術への関心を深めた人数 ・イベントの一般来場者76名 ドローン技術により地域課題の解決、事業創出や効率化の件数 ・市内企業のビジネスマッチング参加1社			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	市内にドローン関連企業もあり、先端技術であるドローンによる地域産業の活性化による地方創生のため。	A:有効である	76名の来場者や来場者アンケートにより、ドローンの事業利用への興味が7割、イベントについて6.5割が満足する等、イベント開催の趣旨に添う結果となった。	A:効率的である	ドローン業界の最大手団体である(一社)日本UAS産業振興協議会の事務局である(株)ブルーイノベーションにより効率的な業務が実施できた。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	事業について市内商工業者や市内施設への周知、又WEBやプレスリリース等のメディア戦略により情報提供した。	A:実現している	76名の来場者や来場者アンケートを実施した。	A:実現している	市内企業である双葉電子工業(株)の協力により開催している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	昨年度に開催した「もばらドローンEXPO2017」においてはドローンを幅広い年代に知ってもらうことと、実際にビジネスに直結するような内容の二本立てであったが、平成30年度は、特にビジネスユーズとして建設業と製造業分野のドローン利用を想定した内容として開催した。市外でも同様のイベントが行われているが、茂原市で開催することで、市内だけでなく周辺市町村から、気軽に来場できる上、最新のドローン技術に触れることができる機会をつくることで、アンケート結果によると、来場者にとってドローンを活用した新たな産業振興や地域活性化を展開するきっかけをつかむことができ、大変効果があった。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	事業の費用対効果を鑑みるとある程度の成果が認められるが、今後は事業の見直しを含め、検討するものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・ドローン技術に関する情報収集と情報提供				・民間事業者のドローン技術の活用			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
・ドローン技術に関する情報収集と情報提供				・ドローン技術に関する情報収集と情報提供				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	03	01	02	商店街活性化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	04	商業振興対策事業

実施計画整理番号	
503010201	
総合戦略整理番号	12301

事務事業の概要									
P L A N (計 画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>商店街の環境整備と活性化により、まちの活気と賑わいを創出する。</td> <td>商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。</td> </tr> <tr> <th>平成30年度の具体的な目標</th> <th>平成30年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。</td> <td>・茂原市の商業振興のため、商店街の事業へ補助を行う。 ・商業活性化のための研修会を実施。</td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	商店街の環境整備と活性化により、まちの活気と賑わいを創出する。	商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール	商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。	・茂原市の商業振興のため、商店街の事業へ補助を行う。 ・商業活性化のための研修会を実施。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
	商店街の環境整備と活性化により、まちの活気と賑わいを創出する。	商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。							
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール							
商店街が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減を図る。	・茂原市の商業振興のため、商店街の事業へ補助を行う。 ・商業活性化のための研修会を実施。								

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,339	3,339	1,293	3,569	2,354	2,208	1,950	0	0	1,950	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,339	3,339	1,293	3,569	2,354	2,208	1,950	0	0	1,950	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	商店街にぎわい推進事業の支援	810	400	374	3商店会及び商店会連合会事業に対し支援を行った。今後も引き続き支援を行う。
②	空き店舗の借り上げ料補助	295	1,149	1,149	商店街が実施している空き店舗補助2件、空き店舗活用支援事業に係る補助を3件行った。今後も引き続き、支援を行う。
③	商工業経営研修講師派遣	132	132	100	商業関係者を対象にセミナーを実施した。今後も引き続き支援を行う。
④	商店街共同施設の維持管理支援	2,332	673	585	11商店会の街路灯の維持管理及び共同駐車場の借地代に対し補助を行った。今後も引き続き支援を行う。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,569	2,354	2,208	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各商店街(本納サービス会、駅前通り商店街、サンシティ町保商店会、商店会連合会)主催のイベントに対し補助対象経費の補助(1/2)
- ・複町商店街借り上げた店舗(2件)の家賃に対し補助対象経費の補助(1/2)
- ・商業関係者を対象としたセミナーを実施。
- ・11商店会の街路灯の維持管理費及び商店街の共同駐車場は借地代に対する補助。
- ・空き店舗改装費の経費の補助。

D
O
(
実
施
)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	03	01	02	商店街活性化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	04	商業振興対策事業

整理番号
503010201

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・各商店街振興組合等の活性化イベントへの補助 4件 374,381円 ・共同施設の維持管理費への補助 2件 585,000円 ・商店街振興組合等が実施する空き店舗対策事業に対する家賃補助 2件295,000円 ・空き店舗を活用して事業活動を行う者に対する補助 3件 854,000円 ・商店街活性化のための研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象事業 11件 2,108,381円

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	商店街は市民の憩いの場、地域コミュニティとして重要な役割を担っており、商店街への支援は妥当である。	A:有効である	商店数の減少が続いており、商店街を取り巻く環境が大きく変化しているが、活性化のための支援は有効である。	B:やや効率的である	地域に求められる商店街を持続するという観点から、新たな手段を考えるなど継続して実施していく必要がある。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	茂原市商店会連合会と通じて補助事業を行っている。	A:実現している	参加型イベントであるスタンブラリーなどの事業を行うことにより、市民参加を図った。	A:実現している	茂原市商店会連合会と連携を図っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各商店街振興組合等のイベント開催を通じて地域経済の活性化に寄与した。また、商店街等の街路灯の施設維持により、夜間照明を確保し、安心安全な商店街を形成した。

企画政策課での評価とその理由	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各商店街のイベント開催への支援を実施することにより、商店街の活性化に一定の成果が認められる。引き続き、商店街の環境整備と活性化に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各商店街等のニーズに応じた支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助件数及び金額

令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
A	<ul style="list-style-type: none"> ・各商店街等が実施する活性化事業を支援するとともに、経済的負担の軽減。
	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市の商業振興のため、各商店街の事業へ補助。 ・商業活性化のための研修会の実施。

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	商工団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	05	商工団体支援事業

実施計画整理番号	
504010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 商工業振興のための事業や小規模事業者の経営又は技術の改善発達のための事業を通じ、中小企業の経営の近代化と地域産業の活性化を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 茂原商工会議所が実施する商工業振興のための事業及び小規模事業者の経営又は技術の改善発達のための事業に対し補助金を交付する。県内商工団体に加盟し、指定団地の高度化、県内経済に関する情報収集、他団体との連携を図る。
平成30年度の具体的な目標 市内商工業の活性化のため、商工会議所の商工振興事業、小規模事業者経営支援事業に対し補助金を交付する。	平成30年度スケジュール 茂原市の商工業、小規模事業者の振興のため、商工会議所の事業への補助を行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	0	0	8,897	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	8,897	0	0	8,897	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	商工振興事業の支援	6,277	6,277	6,277	商工会議所が行う商工業振興事業の運営を補助し、商工振興を図った。今後も商工業振興のため、引き続き支援を行う。
②	小規模事業所の支援	2,538	2,538	2,538	商工会議所が行う小規模事業者の支援を補助し、小規模事業者の振興を図った。今後も小規模事業者振興のため、引き続き支援を行う。
③	事業環境改善に向けた関係団体への加盟	82	82	82	関係団体の事業を通して、事業環境改善に努めた。今後も関係団体に引き続き加盟する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		8,897	8,897	8,897	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・商工会議所が行う商工業振興のための事業に対し、補助金を交付。
- ・商工会議所が行う小規模事業者の経営又は技術の改善発達のために事業に対し、補助金を交付。
- ・関係団体(千葉県指定団地協議会・千葉県経済協議会)の事業に参加。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	商工団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	05	商工団体支援事業

整理番号
504010101

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況		30年度成果指標(アウトカム)の達成状況	
・茂原市商工会議所事業補助金 6,277,000円 ・小規模事業経営支援事業費補助金 2,538,000円		・商工業振興に関する支援を受けた相談件数 1235件 ・小規模事業振興に関する支援を受けた事業者件数 383件	
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由	
A:妥当である ・地域活性化のため、茂原市の商工業、小規模事業者の振興を図ることは妥当である。	A:有効である ・茂原商工会議所は、会員数1216名を有し、商工業の経営支援等の専門的な知識を有しており、支援は有効である。	効率性の評価とその理由	
		A:効率的である ・茂原商工会議所は、会員数数を有し、経営支援等の専門的な知識を有しており、商工業振興のため、支援は効率的である。	
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由	
A:実現している 補助金交付要綱をウェブページで公開している。	C:実現の余地がない	「協働」の状況とその理由	
		C:実現の余地がない	
所管による評価とその理由、課題・問題点			
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	・商工会議所の事業により、市内商工業者、小規模事業者の振興が図られている。		
企画政策課での評価とその理由			
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	当初の予定通り補助金が交付されており、成果が認められる。引き続き、市内商工業の活性化のため補助を実施するとともに、支援の成果についても注視していくものとする。		
政策調整会議での評価とその理由			
庁議における方針			

A C T (改 善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
	・商工会議所事業補助金として、商工会議所の行う商工業振興事業に対し、補助を行う。(補助件数・金額) ・小規模事業指導費補助金として、商工会議所の行う小規模事業者振興の事業に対し、補助を行う。(補助件数・金額)	・商工業振興に関する支援を行なった事業者数 ・小規模事業振興に関する支援を受けた事業者数
令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール	
市内商工業活性化のため、商工会議所の商工振興事業、小規模事業経営支援事業に対し補助金を交付。	茂原市の商工業、小規模事業者の振興のため、商工会議所の事業への補助。	

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	ビジネス支援の推進

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

実施計画整理番号	
504010102	
総合戦略整理番号	11201

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>中小企業経営者や、創業後間もない経営者向けに、販路開拓や経営支援に繋がる、ICT活用セミナーを計画し、新たなビジネスモデル構築や展開を支援する。</p>	<p>ICTを活用した創業支援及び経営安定のためのセミナーを開催する。</p>
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い事業所間のあらたなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図る。 取引拡大や経営改善に繋がる交流機会の創出を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ビジネス連携に関する講演会の開催(1回) ビジネスマッチングセミナーの実施(6回)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,500	2,500	2,498	2,000	3,500	3,496	0	0	0	0	0	0
財源内訳	国補助	千円	1,250	1,250	1,248	1,000	1,000	1,747	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,250	1,250	1,250	1,000	2,500	1,749	0	0	0	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ビジネス支援団体の設立に向けた機運の醸成のためのセミナーの実施	2,000	3,500	3,496	異業種間のビジネスマッチングセミナー(6回)を商工会議所及び市内金融機関と連携し、開催した。今後も引き続き開催する。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,000	3,500	3,496	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>ビジネスマッチングを進めるため、経営安定、競争力強化のための各種セミナーを開催した。(プレセミナー、全6回の講座開催 参加20社)</p>

DO (実施)

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	01	ビジネス支援の推進

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	02	中小企業者等振興総合支援事業

整理番号
504010102

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ビジネスマッチングセミナーの開催(プレセミナー及びセミナー6回)	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況 ビジネスマッチングセミナー 参加企業数 20社						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">妥当性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">有効性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">効率性の評価とその理由</th> </tr> <tr> <td> A:妥当である 茂原市の活性化のために、商工業の振興を図ることは、妥当である。 </td> <td> A:有効である 茂原市の商工業の振興を図るためには、異業種間の交流は有効である。 </td> <td> A:効率的である 当該事業へのノウハウを有する事業者へ委託しており、効率的である。 </td> </tr> </table>		妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由	A:妥当である 茂原市の活性化のために、商工業の振興を図ることは、妥当である。	A:有効である 茂原市の商工業の振興を図るためには、異業種間の交流は有効である。	A:効率的である 当該事業へのノウハウを有する事業者へ委託しており、効率的である。
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由					
A:妥当である 茂原市の活性化のために、商工業の振興を図ることは、妥当である。	A:有効である 茂原市の商工業の振興を図るためには、異業種間の交流は有効である。	A:効率的である 当該事業へのノウハウを有する事業者へ委託しており、効率的である。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> <tr> <td> A:実現している ウェブページ及びフェイスブックにより情報発信をしている。 </td> <td> C:実現の余地がない </td> <td> A:実現している 商工会議所や市内金融機関と連携し、取り組んだ。 </td> </tr> </table>		「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由	A:実現している ウェブページ及びフェイスブックにより情報発信をしている。	C:実現の余地がない	A:実現している 商工会議所や市内金融機関と連携し、取り組んだ。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由					
A:実現している ウェブページ及びフェイスブックにより情報発信をしている。	C:実現の余地がない	A:実現している 商工会議所や市内金融機関と連携し、取り組んだ。					
所管による評価とその理由、課題・問題点							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)</td> <td>セミナーを通して、事業者間でのコミュニケーションが図られ、ビジネスマッチングに向けた機運が醸成された。</td> </tr> </table>		B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	セミナーを通して、事業者間でのコミュニケーションが図られ、ビジネスマッチングに向けた機運が醸成された。				
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	セミナーを通して、事業者間でのコミュニケーションが図られ、ビジネスマッチングに向けた機運が醸成された。						
企画政策課での評価とその理由							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)</td> <td>当初の計画通りセミナーが開催されており、一定の成果が認められる。引き続き、幅広い事業者間の新たなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図るため、交流機会の創出に努めるものとする。</td> </tr> </table>		B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	当初の計画通りセミナーが開催されており、一定の成果が認められる。引き続き、幅広い事業者間の新たなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図るため、交流機会の創出に努めるものとする。				
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	当初の計画通りセミナーが開催されており、一定の成果が認められる。引き続き、幅広い事業者間の新たなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図るため、交流機会の創出に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由							
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>							
庁議における方針							
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>							

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定 ビジネスマッチングセミナーの開催	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定 ビジネスマッチングセミナー 参加企業数
令和元年度における具体的な目標	
・幅広い事業者間の新たなネットワーク形成に向けた機運の醸成を図る。 ・取引拡大や新商品開発に繋がる交流機会の創出を図る。	・ビジネス連携の必要性に関するセミナーの開催(1回) ・ビジネスマッチングを行うためのセミナーの開催(3回)

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
5	04	01	03	中小企業資金融資事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
6	01	02	01	中小企業資金融資事業

実施計画整理番号	
504010301	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>中小企業が事業に必要な資金を円滑に融資することで、中小企業の振興と経営の安定化を図る。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>市内6行12支店の金融機関及び商工組合中央金庫千葉支店に資金を預託し中小企業への資金融資を行う。 茂原市制度融資利用者及び(株)日本政策金融公庫小企業等経営改善資金融資制度利用者に対し、利子補給を行う。</p>
<p>平成30年度の具体的な目標</p> <p>中小企業の振興を図るよう、融資制度及び利子補給制度の周知に務める。</p>	<p>平成30年度スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> 各金融機関への預託の実施 茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を実施。 小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を実施 預託金の回収

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	548,287	537,383	535,435	547,404	532,181	530,717	537,278	0	0	537,278	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	515,000	515,000	515,000	515,000	515,000	515,000	515,000	0	0	515,000	0	0
	一般財源	千円	33,287	22,383	20,435	32,404	17,181	15,717	22,278	0	0	22,278	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中小企業資金融資に伴う金融機関預託金	515,000	515,000	515,000	市内金融機関へ融資の原資を預託し、中小企業者への融資を行うことで、中小企業者の経営の安定と振興を図った。今後も引き続き実施する。
②	中小企業融資利用者に対する利子補給	26,078	11,690	11,164	利子補給を行うことで、中小企業者の経営の安定と振興を図った。今後も引き続き実施する。
③	小規模企業等経営改善資金融資利用者に対する利子補給	6,326	5,491	4,553	マル経融資利用者に対し、利子補給を行い、小規模事業者の経営の安定と振興を図った。今後も引き続き実施する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		547,404	532,181	530,717	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・中小企業融資の原資として、市内金融機関へ預託金を預け入れた。
- ・茂原市中小企業融資制度利用者に対して、利子補給を行った。
- ・商工会議所を通じ、融資される日本政策金融公庫のマル経融資に対し、利子補給を行った。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	504010301
5	04	01	03	中小企業資金融資事業	6	01	02	01	中小企業資金融資事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内金融機関への貸付原資の預託 500,000,000円 ・中小企業融資制度利用者補助金 11,164,426円 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者補助金 4,553,100円 				<ul style="list-style-type: none"> ・制度融資の利用者数 62件 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	中小企業の振興は、茂原市の経済の活性化において重要であり、資金面で支援していくことは妥当である。	A:有効である	大企業に比較して、資金調達が困難である中小企業において、資金面での支援をすることは有効である。	A:効率的である	市内金融機関等が行っている融資に対する支援であり、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	中小企業融資制度や利子補給制度についてはウェブページやパンフレットで周知をしている。	C:実現の余地がない		A:実現している	市内金融機関及び商工会議所と連携して行っている支援である。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	中小企業者の安定した資金調達及び利子補給により、中小企業者の経営の安定と振興を図った。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	融資の原資の預託、利子補給を実施しており、利用者も増加していることから、一定の成果が認められる。引き続き、制度を周知し、中小企業の振興に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
(Blank)								
庁議における方針								
(Blank)								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内金融機関への預託及び中小企業融資制度利用者、小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を行う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業融資制度利用者数 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者数 			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> 中小企業者の振興を図るため、融資制度及び利子補給制度の周知に努める。 				<ul style="list-style-type: none"> ・市内金融機関への貸付原資の預託を行う。 ・茂原市中小企業融資制度利用者へ利子補給を行う。 ・小規模事業者経営改善資金融資利用者への利子補給を行う。 ・預託金の返還 				

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	05	02	01
観光振興事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	03	01
茂原七夕まつり事業			

実施計画整理番号	
505020101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	観光イベントの充実と広域連携による観光資源の整備により、まちの魅力を向上させるとともに効果的に情報発信することで、年間を通じ本市を訪れる観光客の増加を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市観光協会、茂原秋まつり運営協議会への補助金の交付。 ・観光ガイドブックや観光大使の活用によるまちの魅力発信。 ・各種関連団体への負担金の拠出
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
市WEBサイトの見直し、茂原市観光協会ホームページ、観光ガイドブックをリニューアルし、新たな本市の魅力発信に努める	茂原桜まつり(4月)、茂原七夕まつり(7月)、茂原秋まつり(9月)、もばら冬の七夕まつり(2月)、三井アウトレットパーク木更津観光PRイベント(10月、3月)、ぐるっと長生フェスタ2019(3月)、中房総観光推進キャンペーン(6月、2月)、幕張メッセ観光PRイベント(6月)、市原サーブスエア交通安全キャンペーンイベント(7月)等の実施をする。また、各イベント委員会や担当者会議を定期的を開催する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	17,461	18,164	18,065	17,461	18,628	18,483	18,441	0	0	18,441	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	110	110	110	110	24	19	24	0	0	24	0	0
	一般財源	千円	17,351	18,054	17,955	17,351	18,604	18,464	18,417	0	0	18,417	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市観光協会の支援	2,756	2,756	2,756	桜まつりの開催や七夕まつりでイベント等を実施した。今後も引き続き支援する。
②	茂原七夕まつり、茂原冬の七夕まつりの開催支援	13,500	14,500	14,500	関東屈指の夏まつりとして多くの来場者で賑わった。冬の七夕まつりも冬のイベントとして定着しており、今後も継続して支援していく。
③	茂原秋まつりの支援	600	780	780	秋のイベントとして定着しており、近年は多くの集客があることから、今後も引き続き支援していく。
④	各種団体との広域連携	365	352	327	長生地域観光連盟や中房総観光推進ネットワーク協議会と連携し、今後も継続して各種PRイベントを開催する。
⑤	観光大使によるPR活動	240	240	120	今後もテレビ番組などのメディアを活用し、本市のPR活動に努める。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		17,461	18,628	18,483	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・三井アウトレットパーク木更津、幕張メッセ、ZOZOマリンスタジアム等においてイベントに参加し、本市のPRに努めた。 ・七夕まつり等イベント前には、海ほたるPAや三井アウトレットパーク木更津においてパンフレットの配布、パネルの展示等を行い、周知に努めた。 ・観光パンフレットを作成し、海ほたるPA、三井アウトレットパーク木更津(チーパークンプラザ)等に配架し、本市の魅力の情報発信を行った。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	505020101
5	05	02	01	観光振興事業	6	01	03	01	茂原七夕まつり事業	

30年度活動指標(アウトプット)の達成状況	30年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 観光ガイドブック(観光編・グルメ編)を20,000部ずつ作成し、商業施設やイベントで配布した。 メディアの活用については、テレビ番組5回、ラジオ番組3回、観光協会及び市のウェブページやフェイスブックを活用し、本市の魅力の発信をした。 観光大使については、桜まつり、七夕まつり等合計4回出演した。 	<ul style="list-style-type: none"> 茂原公園さくらまつり 来場者数 120,000人 第64回茂原七夕まつり 来場者数 680,000人 第5回冬の七夕まつり 来場者数 5,500人

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	観光事業は、交流人口の増加や地域経済の活性化に繋がり、妥当である。	A:有効である	茂原公園の桜や七夕まつりは、重要な観光資源であり、支援することは、有効である。	A:効率的である	観光協会や七夕まつり実行委員会等に対する補助であり、補助要綱に基づき効率的に実施できている。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	観光協会、実行委員会、市のウェブページやSNS、各種ポスター、パンフレットなどの掲示や配布などにより、情報発信を行った。	A:実現している	観光協会や実行委員会等が主体となり、会員等の意見により事業を進めている。	A:実現している	各イベントにおいて市民参加できる取り組みを行い、市民の意見を聞きながら、改善をしている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	「茂原公園さくらまつり」、「茂原七夕まつり」などの観光資源を有効活用し、観光客を来訪を促し、地域経済の活性を図れた。今後も四季を通しておもてなしできる更なる観光資源のブラッシュアップを図る必要がある。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各種イベントの支援、情報発信により、まちの魅力向上に成果が認められる。引き続き、本市の魅力発信に努め、観光客の増加を図るものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和元年度活動指標(アウトプット)の設定	令和元年度成果指標(アウトカム)の設定
<ul style="list-style-type: none"> 観光PRイベント参加回数 観光パンフレット配布数 各種メディア掲載件数 観光大使出演回数 	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込客数

令和元年度における具体的な目標	令和元年度における事務事業スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 茂原市観光協会、七夕まつり実行委員会、秋まつり運営協議会などの各団体に対し、補助金を交付し、運営を支援する。 長生地域観光連盟、中房総観光推進ネットワーク協議会と連携し、各種PRイベントを開催する。 メディアを活用した情報発信に努める。 	茂原桜まつり(4月)、茂原七夕まつり(7月)、茂原秋まつり(9月)、もばら冬の七夕まつり(2月)、三井アウトレットパーク木更津観光PRイベント(10月、3月)、ぐるっと長生フェスタ2020(3月)、中房総観光推進キャンペーン(6月、2月)、幕張メッセ観光PRイベント(6月)、市原サービスエリア交通安全キャンペーンイベント(7月)等の実施をする。また、各イベント委員会や担当者会議を定期的で開催する。

CHECK (評価)

A C T (改善)

平成30年度 事務事業整理シート

基本計画			
章	節	項	細
実施計画事業名			
5	07	01	02
労政対策事業			

予算科目			
款	項	目	事
事業名			
6	01	01	02
労政対策事業			

実施計画整理番号	
507010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>勤労者に対する福祉事業の支援と厚生資金の円滑な融資により、豊かでゆとりある生活の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勤労者のための各種福祉対策事業を実施している長生茂原地区労働者福祉協議会に、補助金を交付する。 中央労働金庫茂原支店に融資の原資を預託し、低金利で厚生資金を円滑に融資させる。
	平成30年度の具体的な目標	平成30年度スケジュール
<p>勤労者の福祉の充実を図るため、中央労働金庫へ預託を実行するとともに、長生茂原地区労働者福祉協議会の活動に補助金を交付する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長生茂原地区労働者福祉協議会へ補助を行う。 中央労働金庫茂原支店への預託を実施する。 預託金を回収する。 	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	10,148	10,148	10,148	10,148	10,148	10,148	10,148	0	0	10,148	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	0	0	10,000	0	0
	一般財源	千円	148	148	148	148	148	148	148	0	0	148	0	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	長生茂原地区労働者福祉協議会の支援	148	148	148	勤労者の福祉事業を通じて、勤労者の余暇の活用・生活の充実を図り、また、勤労者相互の親睦融和を図った。
	②	厚生資金融資のための金融機関預託金	10,000	10,000	10,000	中央労働金庫への預託により、低金利で生活資金融資を行い、勤労者の福祉の充実を図った。
	③		0	0	0	
	④		0	0	0	
	⑤		0	0	0	
	⑥		0	0	0	
	⑦		0	0	0	
	⑧		0	0	0	
	⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0		
事業費計			10,148	10,148	10,148	

平成30年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- 長生茂原地区労働者福祉協議会が勤労者の福祉増進の為、実施する福祉対策事業に補助金を交付した。
- 中央労働金庫茂原支店へ茂原市勤労者厚生資金の貸付原資となる資金を預託した。

平成30年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	507010201
5	07	01	02	労政対策事業	6	01	01	02	労政対策事業	

CHECK (評価)	30年度活動指標(アウトプット)の達成状況				30年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金額 148,000円 ・預託金額 10,000,000円 				<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業への参加者数 延べ85人 ・厚生資金融資の利用件数 934件 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	低金利で勤労者に融資をするために預託金を預け、労働者間の活動を支援することは妥当である。	A:有効である	勤労者相互の親睦を深め、生活資金を融資することで勤労者福祉の充実に図っており、有効である。	A:効率的である	融資の原資としての預託金であり、効率的に活用されている。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	中央労働金庫茂原支店を通じて融資制度を周知。	A:実現している	長生茂原地区労働者福祉協議会の活動支援をしており、幅広く労働者が参加している。	C:実現の余地がない			
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	勤労者の福祉事業(レクリエーション等)を通じて、勤労者の余暇の活用、生活の充実が図られ、勤労者相互の親睦が深まった。さらに、中央労働金庫への預託金による融資を通じて、勤労者への生活資金の融通が図られている。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	福祉事業への参加者、厚生資金融資の利用件数ともに増加しており、一定の成果が認められる。引き続き、勤労者福祉の充実に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和元年度活動指標(アウトプット)の設定				令和元年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金額 ・預託金額 				<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象事業への参加者数 ・融資制度の利用人数 			
令和元年度における具体的な目標				令和元年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・勤労者の福祉の充実に図るため、中央労働金庫へ預託することにより生活資金の融資を行う。 ・長生茂原地区労働者福祉協議会活動を支援する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・中央労働金庫に厚生資金融資の原資の預託及び償還。 ・長生茂原地区労働者福祉協議会活動への支援。 				